

**「固定ブロードバンドサービスの品質測定手法の確立に関する
サブワーキンググループ（第5回会合）」
ヒアリング資料**

**NTT
docomo**

2021年 7月 13日

今年度の実証に向けた当社の考え（1/3）

1. 各通信事業者におけるモニター募集について

- 実証協力通信事業者が自身のユーザを募る方法の場合、提携CATV事業者、提携ISP事業者ごとにモニターを募り品質測定することは困難であるため、測定対象はドコモ光の1サービスとし、測定する提供形態は実証協力通信事業者側の判断に委ねていただきたいと思います。
- 他方で、公平性を担保するためには、実証協力通信事業者が自身のユーザを募る方法よりも、請負事業者等の第三者が募集サイト等でランダムにモニターを募る方法が望ましいと考えます。
- なお、弊社のように設備を持たない通信事業者は、測定対象とせずに卸元通信事業者、提携CATV事業者、提携ISP事業者の測定結果を公開する対応として整理いただくこと要望します。

2. 測定指標及び測定時の留意点について

- 測定指標について、実効速度以外にアクセス時間帯および、同一回線での複数デバイス使用状況を留意すべきと考えます。

今年度の実証に向けた当社の考え（2/3）

3. 収集するユーザ情報（アンケートで収集すべき情報等）について

- ・ ユーザ情報の収集方法について、契約情報から一部の項目は取得可能ですが、本目的で利用するためにユーザ同意を得る必要があるため、アンケート形式による収集が望ましいと考えます。
- ・ また、ユーザ環境により速度が100Mbps上限となっているケース等を正確に把握するために、一例として以下をアンケート項目に追加してはいかがでしょうか。
 - － 集合住宅の配線方式（VDSL/光配線方式） ※VDSLの場合100Mbps上限
 - － PCによる回線速度の確認（リンク速度の確認）
 - － ISPへの接続形態（PPPoE/IPoE）
 - － 測定用PC以外に通信するデバイス（他PC、スマホ等）
 - － LANケーブル規格（CAT5等） ※CAT5以前の場合100Mbps上限

今年度の実証に向けた当社の考え (3/3)

4. 基本的測定手段（アプリケーションによる測定等）について

- ・ 事業者が専用端末を用意する場合、調達・保守・管理コストが発生し、事業者負担が増えるため、測定アプリが望ましいと考えます。

5. 測定サーバの設置形態について

- ・ 地域分散するようクラウドに設置し、測定結果の平均を取得する形で、実際のトラヒックに沿ったサーバ配置をした方が望ましいと考えます。